

2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/1年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/後学期/後学期 : /Second term/Second term
分類/Category	//基本教養 : //Foundations in Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月4 : /Mon.4

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10121401			
科目番号 /Course Number	10160222			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	ヨーロッパの歴史と文化 : European History and Culture			
担当教員名 / Instructor(s)	/(阿部 拓見)/他 : /ABE Takuji/etc.			
その他/Other	インターンシップ実施 科目 /Internship	国際科学技術コース提供 科目 /IGP	PBL 実施科目 /Project Based Learning	DX 活用科目 /ICT Usage in Learning
				○
	実務経験のある教員による 科目 /Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 /Objectives and Outline of the Course	
日	<ul style="list-style-type: none"> 古代から近代までの欧米世界の歴史を講義する。ヨーロッパだけでなく中近東やアメリカ世界も対象とし、政治・経済・宗教・文化・社会の諸側面を取り上げる。 高校で世界史Bを受講しなかった学生にも学習しやすい内容・レベルをめざすが、現在の日本人による研究がどの程度進められているかなども論及する。
英	

学習の到達目標 /Learning Objectives	
日	現代社会の歴史的・文化的基礎を理解することを目標とし、現代の諸問題を多角的に考える力の修得をめざす。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 /Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第1回	イントロダクション

	英		
2	日	第2回	アテネ・アクロポリスの今昔
	英		
3	日	第3回	カッパドキアとキリスト教・イスラームの対立・交流史
	英		
4	日	第4回	ポンペイの落書きを読む
	英		
5	日	第5回	小括・テスト（以上、阿部担当）
	英		
6	日	第6回	中世ヨーロッパ文化の特徴
	英		
7	日	第7回	修道院の文化
	英		
8	日	第8回	宮廷の文化
	英		
9	日	第9回	都市の文化
	英		
10	日	第10回	小括・テスト（以上、渡邊担当）
	英		
11	日	第11回	16・17世紀—大航海時代・イベリア諸国の海外進出
	英		
12	日	第12回	17・18世紀—イギリス・フランスの興隆
	英		
13	日	第13回	19世紀—市民革命と社会主義革命
	英		
14	日	第14回	20世紀—第1次世界大戦と第2次世界大戦（講義と最終課題の揭示をふくむ）
	英		
15	日	第15回	振り返り（以上、川分担当）
	英		

履修条件 /Prerequisite(s)	
日	特になし
英	

授業時間外学習（予習・復習等） /Required study time, Preparation and review	
日	成績評価として、計3回のテストが課されるため、テーマごとの復習が必要とされる。 また、提示された参考文献を参照しながら、興味をもった分野の文献を事前・事後に読み、自分なりに深めることが望まれる。 本講義に対しては、67.5時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

教科書／参考書 /Textbooks/Reference Books	
日	共通のテキストは使用しない。授業中にプリント資料を配布する他、適宜参考文献を紹介する。
英	

成績評価の方法及び基準 /Grading Policy	
日	3回の小テストの評価を合算する。なお、採点にあたっては、授業内容を十分に理解しているか、またそれぞれの担当範囲の内容全体を万遍なく押さえているかという点を基準とする。
英	

留意事項等 /Point to consider	
日	教材の学習、課題提出、自習等を含め、単位習得に必要な学修時間を確保する計画である。

英	
---	--